

2025年7月6日午前10時30分
 聖霊降臨節第5主日 主日礼拝
 司会 岡安茂能
 奏楽 徳江由利

讚美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のめき)
 前奏
 招きのことば ローマ 8:26-28
 讚美歌 1(1-3)「主イエスよ、われらに」 一同
 交読詩編 14:1-7(P.19/15)
 祈り 司会者
 ≪関東教区お祈りカレンダー≫
 前橋中部教会 高崎教会 高崎南教会
 (主の祈り)

讚美歌 344「聖霊の神、きよき愛よ」 一同

聖書 旧約:申命記 26:5-11(320)
 新約:Ⅱコリント 8:1-15(P.333)

メッセージ『心の豊かさって何だ?』
 祈り 川上 盾 牧師

讚美歌 512「主よ、献げます」 一同

献金 一同
 (献金感謝の祈り)

信仰告白(前橋教会信仰告白B) 一同

頌栄 1(4)
 祝 禱 川上 盾 牧師
 後 奏
 報告・紹介

<招きのことば>ローマ 8:26-28
 同様に、“霊”も弱いわたしたちを助けてくださいます。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、“霊”自らが、言葉に表せないうめきをもって執り成してくださるからです。人の心を見抜く方は、“霊”の思いが何であるかを知っておられます。“霊”は、神の御心に従って、聖なる者たちのために執り成してくださるからです。神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。

≪7月礼拝当番≫ 岡安茂能 深町 穰
 八重樫瑛子 川上ゆり子
 平野礼子 諏訪汐音

≪今週の集会・行事≫
 ◎ 本日礼拝後 うどん食堂 7月定例役員会
 週報発送作業
 ◎ 8日(火) 牧師、上毛愛隣社理事会
 ◎ 10日(木)10:30 紅雲町家庭集会(於・教会)
 ◎ 11日(金)10:00 会堂清掃C組

≪次週の主日≫
 ◎主日礼拝 10:30 創立記念日礼拝(139周年)
 メッセージ『アオリスト!—解釈違いは認める—』
 田中浩一郎牧師(秦野教会)

聖書:旧約:ホセア 1:2-2:3(P.1403)
 新約:マタイ 6:5-15(P.9)
 讚美歌 4, 445, 452, 11(3)
 交読詩編 部落解放祈りの日リタニー
 司会:徳島恵子 奏楽:川名ひさ子
 * 田中浩一郎牧師を囲む昼食会
 * 群馬地区委員会(ZOOM) 17:00

≪予 告≫
 ◎ 婦人会例会(映画会) 7/17(木)10:00
 『オットーという男』(2022年アメリカ映画)
 ◎ 群馬地区壮年部 交流のつどい
 20日(日)15:00 於・甘楽教会
 ◎ C S 夏期キャンプ 25 - 26 日

≪報 告≫
 ◎ 次週は、創立記念日礼拝です

前橋教会出身の田中浩一郎牧師(神奈川・秦野教会)を迎えて行ないます。朝のCS礼拝からお話を担当して下さい。礼拝後は浩一郎さんを囲んで昼食会を予定しています。ご予約下さい。なお、7月第2主日は日本キリスト教団の定める「部落解放祈りの日」にあたります。当日礼拝プログラム“交読詩編”のところで「部落解放祈りの日リタニー」を用います。プリントを用意しましたのでお持ち下さり、目を通し、できれば口に出して読む形でご準備下さい。すべての差別が克服されることを望み見たいと思います。

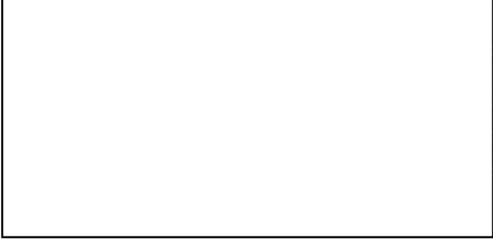
◎ 婦人会例会 (17日/木 10:00より)

映画『オットーという男』(2023年/126分)の上映会、ユーモラスで心温まる映画です。男性の方もぜひどうぞ!軽食を準備しますので、参加希望者は掲示板の用紙にご記名下さい。

開始時間がいつもと違います。ご注意ください!

◎ 夏期献金にご協力下さい

本日、献金袋をお配りいたしました。目標50万円です。8月末までにお届け下さい。またオンラインでの献金ができるようになりました。献金フォームはこちらから→



≪先週の集会≫

	礼拝堂	オンライン	献 金
主日礼拝	45	18	27,426
	昼()	夜	計
聖研祈祷会	10	5	15

《メッセジ》「その日のために」川上盾牧師
 フィリピ 2:12-18(6月29日)
 ▼「生まれて来てよかった、と思えること」—これは私が牧師として語るべき最もコアなメッセージだと思っている。まず自分自身がそう思いたい、出会う人にそう思ってもらいたい...そんな願いを持って牧師をしている。▼ところが先日の新聞で、そんな私にとって驚愕の哲学ジャンルがあることを知った。「反出生主義」。自分が生まれてきたことを否定的にとらえる哲学の思考である。▼太宰治の「生まれてすみません」のような、厭世的な意識を持つ人がいることは知っていた。でも、だからこそ「生まれてきたことの喜び」に出会って欲しい...そう思ってた。しかし反出生主義では、「そのように考えることは悪いことではない。むしろ理に適っている...そう考えるのだ」という。▼第一人者、デビット・ベネター氏は「生まれてこない方がよかった」という著書の中でその論理をこう説明する。「誰の人生にも快樂と苦しみがある。苦しみがあること『悪いこと』、苦しみが少ないこと『良いこと』である。では快樂は?あったら『良いこと』だが、なくてもそれが『悪いこと』ではない(『悪くはない』)。この非対称性から導き出されるのは『苦しみが少ない』が、喜びがなくても困らない」というテーゼであり、だったら生まれない方がいいと結論づけられる。▼正直、この理屈に私は賛同できないものを感じるが、このような考え方に共感する人が一定数いる。それだけ、現実の社会に対し苦難や絶望を感じる人がいるということなのだろう。「そんな社会に、人は何か何でも生まれないわけにはいかないのか?」という問いに答えるのは簡単ではない。▼平和で豊かな社会に生まれた人はいいが、紛争地や戦争が行なわれている国に生きる人から、「どうしてこんな社会に生まれてこないわけではなかったのか?」と問われた時、能天気な楽天主義では答えられないだろう。▼視点を変えれば、人間という種は地球にとっては「やっかい者」である。戦争・差別・暴力・環境破壊...そういった人間存在の弊害を思えば、人類が徐々に世界から退場することは地球にとっては「いいこと」なのかも知れない...そうも思えてくる。▼しかしそれでも私の中には抜きがたいものとして、生まれてきたことに対する根拠のない希望が存在しているのを感じる。だからこそ人生には苦しみがつきまとうかも知れない。しかしどんな過酷な人生にも、一瞬かも知れないが小さな喜びの時が訪れると信じているからだ。▼先週訪ねたことも園で、入園している子どもから「この花のように」を基にした手作りの絵本をもらった。この絵本を配って募金をして、教会に献金をしたいということらしい。そのみずみずしい行動がうれしくて、涙が出て来た。こんな喜びが自分の意図せぬところから訪れる。そんな日のために私たちは生きているのではないだろうか。